

氏名	藤 原 良 二
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1664 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Studies on cellular immunity against bile proteins in primary biliary cirrhosis by the leukocyte migration inhibition test (microdroplet method) (原発性胆汁性肝硬変における胆汁蛋白に対する細胞性免疫の 検討) 一白血球遊走阻止試験（寒天滴法）を用いて—
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

原発性胆汁性肝硬変（PBC）症例における人胆汁蛋白に対する細胞性免疫の成立の有無を白血球遊走阻止試験（LMIT）を用いて検討し，かつ，胆汁蛋白の解析を試みた。

濃縮人肝胆汁の Sepharose 6 B ゲル透過 5 分画中，第 3 分画添加時にのみ PBC11 例中 8 例（73%），慢性活動性肝炎（CAH）10 例中 1 例（10%）が LMIT 陽性となり，PBC では有意に高率であった。LMIT 陰性の PBC 3 例はいずれも D-penicillamine 投与中であつた。家兎にて各分画に対する抗体を作製し，抗原の局在を酵素抗体（PAP）法にて検討すると，抗第 1 分画抗体で胆管，細胆管上皮細胞が，抗第 3 分画抗体で毛細胆管膜が特異的に染色された。この第 3 分画をさらに Sephadex G-200 にて 3 分画化したところ，PBC では第 1 分画添加時にのみ LMIT 陽性であつた。以上 PBC では ductal-antigen 含有分画ではなく，canalicular antigen 含有分画に対し細胞性免疫が成立しており，その抗原蛋白は分子量約 50 万と推測された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は原発性胆汁性肝硬変症例における人胆汁蛋白に対する細胞性免疫の成立の有無を白血球遊走阻止試験を用いて検討しかつ胆汁蛋白の解析を試みたもので，その結果本症では胆汁中の canalicular antigen 含有分画に対して細胞性免疫が成立していることを明らかにした。

これは本症の発症機序の一端を明らかにする新知見であり，よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。